

平成22年5月

品川区立学校における学力定着度調査の公表について

品川区立第二延山小学校

平成18年度より、品川区では小中一貫教育が全小中学校で始まりました。小中一貫教育の一つの柱が「学力の向上」です。9年間一貫した柔軟な教育課程を実施することと、基礎・基本を徹底し学力の定着、個々の優れた能力を最大限に伸ばす学習を行うことによって、学力を伸ばしていきます。今回は、4・3・2のまとまりを重視し、「4年生における基礎学力の定着」の視点から学力定着度調査を実施し、その分析を行いました。

学力定着度調査実施の目的は、品川区小中一貫教育要領に示されている目標および内容に基づき、小学校課程における知識・技能(読み・書き・計算)等の基礎的な内容の定着状況を把握し、その結果をもとに、今までの指導の在り方について分析・考察しながら今後の指導の改善を図り、基礎的な学力をしっかりと身に付けさせていくことにあります。また、同時に指導の内容・方法を改善することで教師の資質や指導力の向上に努め、学校組織として基礎・基本の学力向上に向けた学校改善を行っていくことも大きなねらいです。

第二延山小学校では、基礎的・基本的学力の定着を目指して、習熟度別学習やステップアップ学習・モジュール学習の取り組みを行っています。4年生が行った学力定着度調査の結果を、「基礎・基本の定着」という視点から分析しました。

再度今までの取り組みを見直し、一層の基礎学力の定着をめざし、指導内容・方法について「何を、どのように」改善し、「その結果をどう示していくか」を調査の結果とともに学校のホームページで公表いたします。

◇学力定着度調査の結果分析

<1. 調査について>

調査対象 第二延山小学校4学年児童(現5年生)
調査日 平成22年2月23日(火)
実施教科 国語・算数
問題 国語41問・算数44問(区で独自に作成したもの)

<2. 結果の概要> ※正答率のマスが網掛けになっている問題は、区の習熟基準を下回っている項目。

【国語】

1. 漢字

(1)読み

番号	出題のねらい	学習する学年	習熟基準(%)	正答率(%)
1	学年別漢字配当表の第4学年までに配当されている漢字を読むことができる。	3・4年	80.0	62.0
2			90.0	98.0
3			95.0	99.0
4			80.0	80.0
5			65.0	72.0
6			80.0	82.0
7			75.0	83.0
8			90.0	89.0
9			70.0	83.0
10			70.0	61.0

(2)書き

番号	出題のねらい	学習する学年	習熟基準(%)	正答率(%)
11	学年別漢字配当表の第4学年までに配当されている漢字を書くことができる。	3・4年	70.0	59.0
12			80.0	76.0
13			80.0	59.0
14			75.0	67.0
15			80.0	86.0
16			50.0	36.0
17			80.0	71.0
18			80.0	90.0
19			65.0	90.0
20			60.0	20.0

2. 言語事項

(1)文法に関する知識

番号	出題のねらい	学習する学年	習熟基準(%)	正答率(%)
21	主語・述語の関係をとらえることができる。	1・2年	60.0	65.0
22	修飾・被修飾の関係をとらえることができる。	3・4年	70.0	88.0
23	接続語の働きをとらえることができる。		90.0	93.0

(2)語句に関する知識

番号	出題のねらい	学習する学年	習熟基準(%)	正答率(%)
24	ローマ字を理解し、読むことができる。	3・4年	55.0	65.0
25	類義語を使い分けすることができる。		90.0	96.0
26	多義語の意味がわかる。		85.0	92.0
27	熟語の構成がわかる。		75.0	67.0
28	国語辞典の使い方がわかる。		60.0	83.0

3. 文学的な文章の読み取り

番号	出題のねらい	学習する学年	習熟基準(%)	正答率(%)
29	叙述をもとに、場面の様子を読み取ることができる。	3・4年	90.0	89.0
30	叙述をもとに、登場人物の様子を読み取ることができる。		85.0	75.0
31	叙述をもとに、場面の様子を読み取ることができる。		75.0	89.0
32	叙述をもとに、登場人物の様子を読み取ることができる。		75.0	85.0

4. 説明的な文章の読み取り

番号	出題のねらい	学習する学年	習熟基準(%)	正答率(%)
33	細かい点に注意して文章を読むことができる。	3・4年	85.0	80.0
34			80.0	64.0
35	内容を大きくまとめながら文章を読むことができる。		75.0	76.0
36			85.0	89.0
37			65.0	61.0

5. 作文

番号	出題のねらい	学習する学年	習熟基準(%)	正答率(%)
38	相手や目的に応じて、適切に書くことができる。	3・4年	75.0	90.0
39	考えが明確になるように、段落相互の関係を考えることができる。		65.0	58.0
40	書く必要のある事柄を収集したり選択したりすることができる。		65.0	29.0
41			75.0	78.0

【算数】

(1) 数と式の意味と計算・数量関係(計算)

番号	出題のねらい	学習する学年	習熟基準(%)	正答率(%)
1	$(1けた) + (1けた) = (2けた)$ の加法の計算ができる。	1年	90.0	100.0
2	$(十何) - (1けた) = (1けた)$ の減法の計算ができる。		90.0	95.0
3	$2けた + 2けた$ (くり上がり2回)の加法の筆算ができる。	2年	90.0	93.0
4	$3けた - 2けた$ (くり下がり2回)の減法の筆算ができる。		90.0	88.0
5	同分母の真分数の加法の計算ができる。	4年	80.0	99.0
6	同分母の真分数の減法の計算ができる。		80.0	95.0
7	7の段の九九ができる。	2年	90.0	98.0
8	$2けた \div 1けた$ (余りなし)の除法の計算ができる。	3年	90.0	99.0
9	$2けた \div 1けた$ (余りあり)の除法の計算ができる。		90.0	99.0
10	$2けた \times 2けた$ の乗法の筆算ができる。		70.0	80.0
11	$3けた \div 2けた$ (余りなし)の除法の筆算ができる。	4年	70.0	86.0
12	小数+小数の加法の計算ができる。	3年	90.0	92.0
13	小数-小数の減法の計算ができる。		80.0	96.0
14	整数-小数の減法の計算ができる。		80.0	85.0
15	小数(小数第二位)+小数(小数第三位)の加法の計算ができる。	4年	70.0	78.0
16	小数(小数第一位) \times 整数の乗法の筆算ができる。		70.0	81.0
17	小数(小数第一位) \div 整数の除法の筆算ができる。		70.0	83.0
18	四則混合の式の計算ができる。		70.0	79.0
19	()を含む四則混合の式の計算ができる。		70.0	96.0
20	分配法則を理解し、四則混合の式の計算に利用できる。		60.0	78.0

(2) 数と式の意味と計算(計算以外)

番号	出題のねらい	学習する学年	習熟基準(%)	正答率(%)
21	減法を適用して、文章問題を解くことができる。	1年	90.0	92.0
22	十進位取り記数法の考え方を理解できる。	2年	80.0	88.0
23	命数法で書かれた数を記数法で表すことができる。	4年	80.0	88.0
24	千の位までの概数の表し方を理解している。		70.0	87.0
25	除法を適用して、倍の文章問題を解くことができる。		70.0	70.0
26	数直線上に示された小数をよみとることができる。	3年	90.0	94.0
27	$1/1000$ の位までの小数の表し方を理解している。	4年	80.0	84.0
28	帯分数、仮分数、真分数、整数を大小順に並べることができる。	3年	60.0	70.0

(3)量と測定・図形と計量(時刻と時間、かさや長さの単位)

番号	出題のねらい	学習する学年	習熟基準(%)	正答率(%)
29	ある時刻から一定時間を経過した時刻を求めることができる。	3年	90.0	94.0
30	2つの時刻を比較して、その間の時間を求めることができる。		70.0	75.0
31	1ℓ=1000mlを理解し、適切な単位を用いることができる。		70.0	88.0
32	長さの単位について理解し、適切な単位を用いることができる。		80.0	97.0
33	ひょう量2kgのはかりの目盛りを正確によみとることができる。		70.0	89.0

(4)図形と計量

番号	出題のねらい	学習する学年	習熟基準(%)	正答率(%)
34	点Aを中心に35°の角の作図ができる。	4年	70.0	93.0
35	式に合った求め方を示す図を選択することができる。		70.0	83.0
36	長方形の特徴を理解することができる。	2年	80.0	81.0
37	直角三角形の特徴を理解し、弁別できる。		70.0	81.0
38	箱を構成するのに必要な辺や頂点の数がわかる。	3年	70.0	83.0
39	二等辺三角形の定義を理解している。		70.0	98.0
40	円の半径について理解している。	4年	80.0	92.0

(5)資料の分析

番号	出題のねらい	学習する学年	習熟基準(%)	正答率(%)
41	表の値を棒グラフに表すことができる。	3年	90.0	94.0
42	二次元表のよみ方・かき方を理解している。	4年	80.0	85.0
43	折れ線グラフと棒グラフを正しくよみとることができる。	3・4年	60.0	86.0
44	2種類のグラフをよみとり、問題を解決することができる。		50.0	84.0

国語、算数ともに正答率の平均が習熟基準の平均を超えることができた。また、区の習熟基準に対する達成率は、国語59.0%、算数83.0%となった。このことから、算数では基礎学力定着の指標の1つを達成できたと考えているが、国語は数値を見ると達成率が十分とはいえない。

一つ一つの問題でみると、国語では41問中18問(44%)、算数では44問中1問(2%)、習熟基準を超えられなかった問題がある。これからの課題と考えている。

- ・国語では、「漢字の読み書き」「文学的文章」「説明的文章」「作文」の4領域で、習熟基準を下回った問題があった。特に「漢字の書き」の定着度の低さが見られる。
- ・算数では、「数と式の意味の計算」の領域の1問だけが、習熟基準を下回っていた。しかし、習熟基準と比較すると、-2.0ポイントで、習熟基準まであと一歩といえる。

<3. 結果の分析と解説>

今回の学力定着度調査の問題と誤答の関係を調べることから、基礎学力定着への課題を検討した。どんな問題に間違いが多いのか、一つ一つ調べてみると、以下ようになる。

《習熟基準を下回った問題－国語－》

(1)「漢字」読み 3問、書き 7問

・漢字を読むことはできるが書けない。全体での指導、個別での指導の両面から指導していく必要性がある。

(2)「語句に関する知識」1問

・熟語の構成についての問題で、つまずきが見られる。漢字学習の際、熟語も合わせて指導する必要がある。

(3)「文学的な文章の読み取り」2問

・場面や登場人物の様子を読み取る問題でのつまずきが見られる。一文一文をていねいに取り上げ、叙述に即した指導を大切にする必要がある。

(4)「説明的な文章の読み取り」3問

・細かい点に注意して文章を読む問題と、中心となる語や文をとらえて、段落の要点をとらえる問題でのつまずきが見られる。接続詞やキーワードになる言葉などに注目させて、段落の要点をつかむ指導をする必要がある。

(5)「作文」2問

・考えが明確になるように、2段落構成で作文を書く問題と取材メモから必要な事柄を選択して書く問題につまずきが見られる。与えられた情報から必要なものを読み取ってそれを活用する指導を大切にする必要がある。

《習熟基準を下回った問題－算数－》

(1)「数と式の意味と計算」1問

・3けた－2けた(くり下がり2回)の減法の筆算につまずきが見られる。

<4. 結果から明らかになった課題>

・各単元の最後に習熟度別学習後の定着率の確認と、学期のまとめ、学年のまとめ等で定着していないところを早期に見付け、つまずき部分の習熟を図る学習を繰り返し行っていく必要がある。

・学習したことを期間をあけて繰り返し実施することで習熟を図る。そのための学習計画を作成していくことが必要で。

・つまずきが多い内容は、多くの習熟の機会を設け、定着を図る工夫が大切である。習熟を図っていく場として、放課後の個別学習の時間、家庭学習などを活用し、個の習熟度に合わせた指導をしていく。

(1)国語では、文学的な文章、説明文の読み取りを重点的に指導していく必要がある。また、漢字や作文の指導も強化していく必要がある。

(2)算数では1問ではあるが、習熟基準を下まわっている問題があるので、習熟度向上へ向けての手だての工夫が必要となる。

<5. 今後の改善・対策>

(1)国語では、段落分けの方法や事実や意見と関連づけて読み解く指導を行う。

- ・文学的文章の指導では、場面や登場人物の様子を叙述と関連づけて読み解く指導を行う。問題と正対した部分にサイドラインを引いたり、キーワードを見つけたりする指導をくり返す。
- ・説明文の授業を中心に、段落ごとに要点をまとめたり、段落と段落の関係を意識して読み取る指導をくり返す。

低学年…順序を意識して読む。

中学年…段落の要点を押さえたり、段落相互のつながりを考えたりして読む。

高学年…全体の要旨をとらえる。筆者に対して、自分の考え持ちながら読む。

(2)全学年で読書指導を計画的に行い、「自ら本に手を伸ばす児童」を育てる。

- ・朝読書(毎週3回)
- ・読書月間年2回(あじさい読書月間6月・どんぐり読書月間11月)
- ・全学級で、保護者ボランティアによる読み聞かせ。(隔週)
- ・読み聞かせボランティア「たんぼぼ」によるお話し会 月1回
- ・教師の読み聞かせ(文学的作品を中心に)
- ・図書館司書による読み聞かせ、読書指導。

(3)漢字については、モジュール学習、個別学習の時間、家庭学習を活用し、習熟を図る。

- ・モジュール学習…習熟度別学習を取り入れる。
- ・個別学習の時間…算数中心に実施していたが、漢字指導の割合を増やす。
- ・家庭学習…習熟度に応じて、課題を与える。
- ・習得状況の確認…テスト(検定)等で個々の漢字の習得状況を確認し、個に応じた指導を行う。

(4)作文については、次のようなことに重点をおいて指導をする。

- ・「はじめ」「中」「終わり」を意識して書く。
- ・説明文を要約し、それに自分の考えを付けたして書く。
- ・大まかな流れを指示し、短作文を書かせる。

上に挙げた他にも、日記、学習発表会の発表原稿を書くことなどを通して指導をしていく。

(5)計算については、算数の授業、ステップアップ学習、個別学習、家庭学習を活用し、習熟を図る。

(6)算数では「数と式の意味の計算」、国語では「漢字」「文学的な文章の読み取り」「説明的な文章の読み取り」「作文」について習熟を図っていく。

☆品川区小中一貫教育要領に示される内容を全員に定着させていくために。

- ・全学年に共通する課題の習熟を図るために、学習計画を立て、繰り返し学習して身に付ける。
[毎週の学年団会議で、計画の作成や進捗状況の確認をする。]
- ・各学年・学級・個人の特徴(基礎学力の弱いところ)に応じた習熟を図る。
- ・つまり場面は習熟の時間を多く設定したり、期間を空けて繰り返し指導したりしていく。
[モジュール学習・ステップアップ学習・放課後個別学習の時間の活用]
- ・家庭学習を活用する。学年団会議で、計画的・効果的な課題を検討する。
- ・算数で学んだ資料(グラフや表など)の読み取り方を他教科でも活用していくことを意識した指導をしていく。

(7)システムを活かす

①習熟度別学習・少人数指導を通して

- ・「計算の力(速さ・正確さ)の向上」を習熟度別学習の学習課題の一つに設定して十分習熟を図る。

- ・前学年のCRTのデータを基に、習熟度別学習の時間で各学年の基礎的基本的な内容の補強を図る。
- ・がんばりカード(宿題チェックカード)を全学年で活用する。
[学習→児童の自己評価(自分の一日の学習の様子をふり返る)→保護者の確認(子どもの学習状況の把握と課題を受け止める)→担任(結果を指導計画に生かす)]のスタイルを繰り返し行い、家庭と学校で連携して、学習の見取りを行う。
- ②モジュール学習の活用(全学年) 基本スタイル[月、火、木、金の各15分ずつ]
 - ・モジュールと国語の授業で、2学期までに当該学年の新出漢字を全部学習する。3学期は繰り返し練習し、習熟の時間に充てる。
 - ・漢字・計算の習熟の状況を、各学期の最後にテストなどで把握する。
- ③ステップアップ学習の活用(5, 6年生)
 - 基本スタイル[算数:週1日(45分)]
 - ・「いろいろなタイプの計算」を必ず含めて、各学年の基礎的基本的事項の習熟を図る。
 - ・児童のおよその習熟に応じてコース分けをし、学習を進める。
- ④計画的な家庭学習
 - ・家庭学習の時間、内容の目安は、年度初めに各家庭に周知してあるが、学年団会議で学習内容、指導方法を検討するとともに、綿密な家庭学習計画を作成し、学力向上に即した家庭学習を計画、提示していく。また、その見取りを行い、学習内容の習得が不十分な場合には再度指導を行う。
- ⑤個に応じて放課後に「個別学習の時間(補習)」を設定する。(最低週2回～3回、漢字と計算を中心に。)
- ⑥全学年で(1年生は、2学期から)、国語辞典を活用した辞書引き学習を指導計画に位置づけ、語彙の充実を図る。
- ⑦時間割作成の際には、算数の習熟度別学習を最優先とする。
- ⑧年間を通して同じ指導助手、ステップアップの講師が指導に当たることにより計画的効果的な学習を進めることができる。

<6. 習熟度の検証方法>

- (1)漢字ステージ100・モジュール学習・ステップアップ学習や習熟度別学習後のデータを取り、定着率を確認。
- (2)習熟の状況を、各学期の最後に到達度調査などで把握する。
- (3)毎年行っている本校独自の取り組みである全校学力検査(教研式標準学力検査CRT)を、平成19年度より社会・理科を含む4教科で実施。そして、前年度の結果と比較し基礎的な学力が身に付いたかどうかを確認。なお、児童一人一人の学力検査のデータについては、平成15年度より全保護者に開示。(保護者会での説明・個人の検査カード)
- (4)全国(6年)・東京都(5年)・品川区(4年)学力調査の結果をもとに、学年指導計画の中の重点単元を設定する。